武蔵野

学校だより　NO.１１
平成３１年　２月号
昭島市立武蔵野小学校
校　長　　岡　部　　操

厳しい寒さの中で

副校長　　川上卓哉

厳しい寒さの日々ですが、子供たちは寒さにも負けず、「おはようございます。」と毎朝、元気に登校しています。

２月４日は立春です。立春は冬至と春分の中間の日で、寒さが底を過ぎ、暖かい日々に向かっていきます。このため古来、日本では立春を春の始まりの日、また、一年の始まりとしました。この名残が年賀状に使われる「初春」「迎春」の言葉です。現在では、おおよそ春を３月から５月としていますが、昔は立春から立夏（春分と夏至の中間の日、今年は５月６日）までとしていました。およそ一月のずれがあります。

春とは言え寒さの底を過ぎたばかりで、まだまだ、寒さは続きます。しかし、葉を落とし枯れ枝に見える木々も目を凝らして枝先を見るとふくらんだ木の芽を見ることができます。この寒さの中でも校庭の木々は本格的な春に向かって、しっかりと準備をしています。サクラも丸い花芽ができています。春が待ち遠しいです。

学校の一年の締めくくりは３学期です。学年で一年間に身に付ける学習内容の総まとめの時期です。ではどれだけ身に付けばよいのでしょうか。

「学年でやるべき学習の９０％ができるようになったよ。」それは「よかったね。」「よくできたね。」となります。これで本当に良いのでしょうか。仮に１年目で９０％、２年目に９０％、３年目９０％できたとします。では、４年目５年目にはどうなるかを調べますと毎年できなかった１０％が積み重なり、４年分で４０％。そして５年目には５０％台になります。５０％ということはつまり半年分の学習が身に付いていないということになります。毎年９０％できたからと喜んでいるわけにはいかないのです。その学年で身に付けるべきことは完全に身に付けておかなくては、翌年に大きく影響します。毎年９０％の学習ができていても、できていない１０％の蓄積で段々に学習に付いていくのが難しくなってきます。また、身に付けることができなかった部分を取り返すには大きなエネルギーと努力が必要となります。日々の学習の積み残しがないようにするためには授業に集中して取り組むことや、学習を振り返り定着させる家庭学習が大切となります。

厳しい寒さの中、木々も花咲く春に向け着々と準備をしています。寒さや風邪に負けず、新しい学年を迎えるために一年の締めくくりの学習を頑張り、しっかりと身に付けるようにしましょう。今の学年も２月、３月と残りわずかになってきました。各家庭でも子供たちへの励ましをよろしくお願いします。

１月２５日（金）「小中一貫教育研究発表会」を瑞雲中学校で行い、瑞雲中学校、つつじが丘小学校とともに３年間取り組んできた内容を発表しました。市内各小中学校の教員をはじめ、地域の皆様にも多数ご参会いただきました。３校の特色を生かしながら、次年度以降も小中連携を継続、【人とつながり、よりよく生きる「瑞雲」の子】の育成を行っていきます。